ヤスクニ通信　No.274　2023 年 1 月 20 日　例会　毎月第3金曜　7:00～9:00pm（休日の時第 4 金）
発行　靖国神社国営化反対福音主義キリスト者の集い（略称「つどい」）　代表・星出卓也（Tel/Fax042-458-0251）
事務局　西東京市柳沢 2-11-13 西武柳沢キリスト教会気付　HP　https://yasukuninotsudoi.christian.jp/

ヤスクニ・レポ　274

平和の準備

荻野廣己（日本同盟基督教団馬込沢キリスト教会）

昨年 3 月末に家内が亡くなってからは、自分についても死と言うものが現実に迫っていることを認識するようになった。神の存在は本当か、復活はあるのかと心底求めて聖書通読を続けている。50 年連れ添った家内に泣きたい思いで会いたいと願うが、マタイ 22 章３０節にて、イエスが「復活の時には彼らはめとったり、とついだりすることはない」と答えておられることには何かそれ以上の存在様態があるのだろうと期待しながらも特定の関係は持てないのかと少しがっかりする。そのよう思いを繰り返しながらも、業務や郷里の活動などで凄まじい生活を過ごしている。食事作り片付けも時間がかかる。

しかし一方ではこの世の末も気掛かりとなる。神の手を煩わせることなく、その前に人類の自滅が容易にありうる様相だからだ。この世の末の様相を帯びた期間がなくなり、破滅がいつ実現しないとは言えない現実味を含んでいる。2022 年 2 月 24 日ロシアが首都キーウ近郊を初めウクライナ東部、南部に侵攻した。ロシアは圧倒的な武力によってキーウを 10 日ほどで占領し、ウクライナ全体を数ヶ月で終了すると予測されたが間もなく満 1 年を迎える。この間プーチン大統領は核兵器の使用を有ることも示唆し続けた。NATO 諸国の介入を牽制する意図であったが、NATO 諸国は一部躊躇しながらも武器弾薬を提供した。ことに米国は兵士が一人で扱って戦車を破壊することができる歩兵携行型対戦車砲ジャベリン、そして命中率が高い多連装ロケット砲ハイマースを提供した。各国が独自制作の武器を提供して実践型武器見本市となっている。戦争の方法も衛星通信を活用して、スマホ発信の微細な電波を受信して敵軍の居場所を察知してそこにミサイルが着弾し破壊する。我々にとって聞きなれない防空システムが活用されて、飛来するドロンやミサイルを撃墜するという。これらの攻撃や防衛は新たな戦争ショーとなっている。米国をはじめ各国の攻撃の成果を高める数々の新たな武器の多くは実践に使用したことがなかったが新生武器の実践場ともなっている。各地での記録は綿密にとられ、武器商人たちは武器の攻撃性能を高める検討をし、改善を計って新兵器の値積りをしていることであろう。

戦争は金がかかることも教えてくれている。今回威力を示したのはジャベリンであるが、ミサイルの価格１発が 2000 万円であり、ハイマースに至っては１基２０億円である。NATO 西欧諸国は全て供与のようである。昨年４月６日に米国上院は第２次大戦中に連合国向けに兵器供与を加速させた「レンドリュース法」（武器貸与法）の復活を全会一致で可決した。バイデン政権発足からの軍事支援は２４億ドル（約 3,000 億円）でありロシアの侵攻開始からは１７億ドル（約 2,100 億円）に達していたが、戦争は長引き年末までの米国からの支援は累計で 182 億ドルを超えており、他国から突出しているところ、12 月 22 日ゼレンスキーの電撃米国訪問により４５０億ドル（５兆 9300 億円）の緊急支援を決定した。もはやロシヤに対する米国の間接的戦争だ。今年のうちに終わらないと見通され、米国といえど今後の出費に悲鳴も出始めている。

この戦争において立場を変えて凝視している国は台湾、中国、米国、日本である。中国は台湾への侵攻を目論んでいるからだ。将来は米国を凌ぐ軍事実力を持つことを内外に宣言している。軍事大国ロシアがウクライナに苦戦している経過、米軍兵器の威力、防衛システムの精度など観察している。岸田政権になってから敵基地攻撃能力を高めようと、防衛予算を２倍化する方針のもと、今年度の予算を閣議決定した。重要な問題は国会討議によらないで、閣議決定する傾向が強まっている我が国の民主主義が損なわれつつあることに危惧を感じる。明らかに軍事大国へ突き進んでいる。しかも米国から購入する兵器は常に米国の言い値であったが、これからも言い値の高額大量購入をし続ける。属国の感が抜けない。

米戦略国際問題研究所（CSIS）が中国による台湾侵攻の阻止のシミュレーション結果を今月発表した。侵攻について中国は上陸を失敗するという。しかし台湾、米軍、日本軍の被害も甚大である。米国は空母２隻、艦船 7~20、航空機 168～372 機を失う。日本は艦船 26 隻、航空機 122 機の損害となる。この際、日本が要になるとのこと。日本の米軍基地から発進するのが前提である。中国は台湾だけの攻

撃でなく、日本のあらゆる基地にミサイル攻撃をすることになり、プーチンが脅すような核攻撃をしないにしても通常兵器によって、日本国内のあらゆる地域の原子力発電所の周辺設備を破壊して、総合的な機能停止を導き、その修復において国内の全勢力を向けさせるような作戦をとる可能性もある。福島原発の事故のダメージは分かりやすく原子炉そのものを破壊しなくても十分である。国民に恐怖と電力喪失の産業への影響、戦争反対の気運を増大させる戦略とするであろう。都市も破壊し徹底した焦土にすることは80年近く前に米軍がお手本を見せたではないか。CSIS のシミュレーションに止まらず、日本国政府は国内戦について責任ある想定をすべきだ。敵基地攻撃と言えば国内は影響ないかのような楽観を誘いそうだが、かつてほどなく戦火は国内を舐め尽くしたことを思い出さなければならない。戦争の準備に邁進するのは破滅に向かう。

知の鉄人、加藤周一は 2005 年 11 月「九条の会」の講演会でラテン語の「平和を望むなら、戦争を準備せよ」とのラテン語の諺を紹介して、これは間違いである「平和を望むなら、平和を準備せよ」と語ったという。我々は手探りでない、既に手元に武器がある、「憲法九条」と先人、仲間による思考が。

２０２２年１２月１６日例会奨励
「預言書よりもすぐれた者」マタイの福音書１１章２～１１節
柴田智悦牧師（日本同盟基督教団横浜上野町教会）

バプテスマのヨハネは預言者としてイエス様を指し示し、ユダヤ人たちに厳しく悔い改めを迫りました。しかし、そのヨハネが捕らえられ、牢の中から弟子たちをイエス様の元に遣わしたのです。ヨハネに限らず旧約の偉大な預言者たちも、ただ強いだけの人ではなく弱さを持っていました(出 4:10−13、1 列王 19:4）。しかし、このような弱さの中で私たちは新しく主からの召しを受けて立たせていただけるのです(使徒 14:22)。

そしてイエス様は、神の国のしるし(イザヤ 29:18,35:5,61:1)が現れていることを示されました。イエス様は私たちの苦しみを共にされる神として生きておられ、御業をなさっておられるのです。だからこそ「おいでになるはずのお方、救い主」だと言うことができます。イエス様はインマヌエル、神は罪深い私たちと共におられるお方です(マタイ 1:23,21)。

イエス様はつまずきの石であると同時に救いの岩です。自分を中心として考えた時、私たちはこの石につまずきますが、この岩なるイエス様に信頼する時、そこからいのちへ至る道を歩み出せるのです。私たちが救われたのは、ただイエス様の十字架によったのです。

何より、「ヨハネは預言者よりも優れた者」だ、というイエス様の評価に聞くべきです。「この人こそ」預言された先駆者(マラキ 3:1)「その人です」。「女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした」。これほどの評価があるでしょうか。ヨハネはあくまで、すべての預言者にまさる預言者でした。それは、イエス様を直接指し示したという点において優れているのです。さらに、十字架と復活を信じて天の御国の民となった者はそのヨハネよりもはるかに偉大なのです。そのような者とされた私たちでも、やはり疑い動揺し信仰が揺らぐことがあるかもしれません。しかし、イエス様の十字架と復活によって救われご聖霊をいただいて信仰を与えられたのですから、イエス様を基準にしているかぎり、その地位は変わりません。イエス様の評価に生かされましょう。

「本の紹介」――――――――――――――――

■内海愛子、中野晃一、李泳采、鄭栄桓著『いま、朝鮮半島は何を問いかけるのか　民衆の平和と市民の役割・責任』（彩流社、2019 年）

星出卓也

朝鮮半島と日本の戦後史を、日本と在日と韓国の歴史学者、政治学者、それぞれの立場から見ると、実に今まで見えなかったものが見えて来る。単に日韓条約などの日韓外交の歴史だけではなく、韓国の戦後史を知る時に、初めて日本の戦後史について見えて来ることが多い。それぞれの置かれた立場から、それぞれのバックグラウンドや視点から見えて来るものを探りつつ今日に繋がる北東アジアを考え、それぞれのアイデンティティーを越えて連帯出来る道を探る。全編、対談の収録であるが、その都度、知りたい資料が的確に挟まれていて、もう一度「戦後史」は本当に「戦後史」であったのか、ということを含めて今の実体を複合的に考えさせてくれる本です。

巻末に掲載されている「日本・在日・朝鮮半島」の年表もとても有益です。